

令和5年度第1回 富良野市環境審議会 議事録

日 時：令和5年12月4日（月）10時00分～11時30分

場 所：富良野市複合庁舎1階 文化会館会議室C

出席者：〈委員〉

高橋穰二、家次敬介、尾張敏章、大矢根史典、佐藤里津江、石川 芳、
西村尚之、長谷川一也、桑原啓成、鎌田 勲、南部榮一、加藤寿宏（12名）
〈欠席委員〉

有澤浩、市村英規、芝野伸策、泉正子（4名）

1.開会（進行：高橋課長）

2.委員長挨拶

- ・昨年度本審議会で審議した「脱炭素ロードマップ」については、R5.3月のパブリックコメントを経て、R5.4月に公表された。改めて委員の皆様にご挨拶申し上げたい。
- ・この「脱炭素ロードマップ」を推進するにあたり、現在実施や検討されている取り組みについて共有し、さらに取り組みを推進するために、みなさまから意見をいただきたい。
- ・また、環境白書については、令和2年度に環境基本計画が見直され、政策目標の項目変更等が行われたため、記載内容に変更されている部分がある。この後説明があるが、基本計画の推進に向け、今後必要となる取り組み等へのご意見をいただきたい。
- ・最後に事前のご意見、ご質問はその場で回答するが、この場で回答できないものは改めて各委員にご回答を文書で差し上げる形になること了承いただきたい。

3.議事

①.本議会の位置づけについて

- ・事務局より内容説明

【資料】第三次富良野市環境基本計画概要版

《質疑・意見》

なし

②.脱炭素ロードマップの推進について

- ・事務局より内容説明

【資料1】脱炭素ロードマップの推進について

《質疑・意見》

【高橋会長（事前質問）】

- ・【P10】市施設の太陽光設備の発電量は？

【事務局】

- ・別紙【補足】データのとおりとなっている。

- 扇山小／3,316kwh（総使用電力の12%程度）
東 小／2,874kwh（総使用電力の2%程度）
水処理センター／142,957kwh（総使用電力の19%程度※R4.8より供給開始）

【高橋会長（事前質問）】

- 【P10】JR敷地利用の可能性は？

【事務局】

- 現在のところ、環境・脱炭素の視点から利用を検討しているものはないが、アイデア等あればご意見いただきたい。

【高橋会長（事前質問）】

- 【P10】小水力発電試験研究の場所は？

【事務局】

- 麓郷の白鳥川に設置しており、発電した電力は隣接している拾ってきた家の外灯や麓郷小中学校で活用されている。

【南部委員（事前質問）】

- 太陽光や風力などを設置するために農地や山林を借り受けたり買取したりすることを防ぐ条例を作っている市町村が多いが、観光地でもある本市にも必要では？何かあってからでは遅いので早めに手を打つべきと思うが？

【事務局】

- ご意見のとおり、本市は観光が主産業であり、景観への配慮という観点はとても重要であると考えている。こういった背景から、以前より富良野市景観条例にて、再エネ施設の導入にあたり、太陽光や風力などについて一定規模以上のものは、工事着手前の届出を必須としている。受理後に良好な景観形成に資する内容であるか審議を行い、支障がないと判断された場合のみ、行為の着手が可能となっている。本市において、現在のところ大規模な太陽光パネル設置などの具体的な計画は確認できていないが、案件が出てきた際はこの条例に沿って判断していく。

【南部委員】

- 太陽光について環境への負荷はどうか。太陽光パネルを作る経費や将来処分する際の負荷を考慮したら環境への負荷は大きいのではないか。
- また、有害物質も太陽光パネルには使われていると思うが、それも把握したうえで太陽光を推し進めているのか。
- 一定規模以上には縛りがあるとのことだが、小分けにして設置した場合はどうなるのか。

【事務局】

- 環境省のデータで、太陽光発電設備を製造・廃棄する際に使用するエネルギーを何年で回収できるかという「エネルギーペイバックタイム」が示されており、太陽光では、約2年

程度となっている。太陽光パネルの耐用年数は 17 年～20 年であるため、15 年ほどは省エネ・ゼロカーボンに資するものとなる。

- 鉛などの有害物質が使われていることは承知してる。リサイクルが進められているが、現在のところ埋立処分されるものもあるというのが状況。しかし、現在リサイクル率も進み、十数パーセント程度まで埋立されるものが減ってきていると聞いている。国としても、今後の大量廃棄を見据え、有識者を集めての検討会などが行われており、国の動きも注視しながらリサイクル化、リユースを進めていきたい。温暖化を止める活動の一方で、活動を進めるうえでデメリットも軽減していきながら、進めていかななくてはならないと考えている。
- 富良野市では景観条例というものを先駆けて作って対応しているが、委員のご質問のあった抜け穴をついてくるといったケースについて、他地域の状況など情報収集しながら、必要な対応策を検討していきたい。

【加藤委員】

- 事務局の説明で今年の夏の気温が例年の 1.5 度上がっているということに驚きを感じた。こういった情報や富良野市公式 YouTube で発信している富良野高演劇部のゼロカーボンの取り組みなどを、富良野市の公式 LINE を活用して発信していくのも発信力強化という部分で良いのではないかと。
- また、先ほど西中学校で作ったポイ捨て禁止の啓発動画を見せてもらったが、こういったものは市役所だけでなく、宿泊施設などの場所にも発信してもらえるようにしたほうが観光客の目にも留まり、富良野市の取り組みを知ってもらい、より富良野を好きになる。リピーターになってもらえるのではないかと。

【事務局】

- 現状、これらについては環境課のごみアプリでも発信しているが、ご意見いただいた富良野市の公式 LINE での発信も可能なのか、担当課等に確認し、できるとなればアップしていきたい。
- 子どもたちが折角作成してくれたものなので、より多くの方の目に触れるよう機会を設けていきたい。

【家次委員】

- 【25P】太陽光の PPA について、市内事業者が担えるような仕組みづくりも重要で、どのようなことが考えられるか。

【事務局】

- 大規模な太陽光発電設備については、現在においては市内事業者では難しく、市外事業者が設置するケースがほとんどだと思われる。現状、市外事業者から相談がある際は、例えば設置後の維持管理などについては市内事業者にお願いするなど、出来るだけ市内事業者を絡めて事業実施するようお願いをしている。市内事業者を育てていく観点は重要だと考えている。

【桑原委員】

- 学校でのエピソードとして、扇山小には太陽光パネルがすでに設置されており学校内のホールに発電の様子を表示するモニターがあるが、現状、それを意識している子供・先生は正直ほとんどいない。
- また、太陽光パネルから体に良くないものが出ているのではないかという恐れを持っている保護者も少なからずおり、メリットとデメリットを今後どう説明していくのか学校側には求められると思う。
- 一方で、小学校 4 年生の社会科の指導内容として、本市のゼロカーボンシティの取り組みを授業で行っており、子供たちは環境に対する意識はとても高い。
- 小学校 6 年生のある子は、二酸化炭素を利用して安い値段でガソリンとして合成燃料を活用できる技術や、太陽光パネルも「ペロプスカイト」という太陽光パネルよりもデメリットが少ないというものがあるなど知っており、富良野っ子は意識が高いと思っている。

【家次委員】

- 太陽光パネルから体に良くないものが出ているのではないかという話で、コンディショナーという直流を交流に変える機械からの電磁波が出ることや気にされているのではないかと思う。そこから出る電磁波はシールドで囲って近くの子供たちに電磁波の影響が与えられないような措置をとることは可能である。

【南部委員】

- この件にかかわらず、初めは少ない人数ではあるが影響を受けた人が病気になったと訴えると変人扱いされてしまうが学問的に証明されるのは何十年もあとの話になることが多々ある。常にメリットだけでなく、デメリットも平等に伝えることが大事だと思う。

【高橋会長】

- メリットデメリットの面では、メリットばかりが先行してしまう風潮は実感しており、デメリットは押さえつつ、何が一番大切なのか議論しながら進めていく必要があると思う。

【家次委員】

- CO2 削減のため、熱利用は大変有効である。薪・ペレットはもちろん太陽熱温水器も市民への補助メニューに入ってくると選択の幅が広がり、より効果が高まるので良いのではないか。

【家次委員】

- 太陽熱温水器について、今のものは北海道の冬でも使えるよう、マイナス 20~30 度でも対応できるようになっている。しかし、値段が高いのがネックであり、今回の補助を受けられるようになれば、導入は増えていくと思う。

【事務局】

- 補助対象として追加が可能か、これを追加することで他のメニューを削除することにもなるので、全体を見ながら可能であれば追加するというところで整理させてほしい。

【事務局】

- いただいた意見を踏まえつつ、計画内容を精査し、令和6年1月下旬から応募が始まると思われる環境省補助「重点対策加速化事業」に申請していく。

③.環境白書について

• 事務局より内容説明

【資料2】富良野市環境白書（令和4年度）

《質疑・意見》

【高橋会長（事前質問）】

- 【P1】R3の白書と数字が違うが？

【事務局】

- R3まで団体認証を1とカウントしていたのを、農家戸数に変えたため戸数が増えている。

【南部委員（事前質問）】

- 【P2】「富良野市森林整備計画に基づき、計画的な森林整備を推進」とあるが、この取り組み内容で目標年には達成できるのか？

【事務局】

- 担当課（農林課）に確認し、森林の整備については概ね計画通り進められている。
- ただ、課題としては担い手不足がある。取り組みとして、人材確保とあわせて省力化を進めていく必要があり、調査研究としてドローンによる樹種や樹体大きさを判別し、それにより資源量を分析するような新たな技術の実証も行っている。
- また、市有林面積については、所有者がいなくなった面積などを市有林にして管理するようしており、そういった面積含めて市有林面積はR12に840ha程度と考えている。

【高橋会長・南部委員（事前質問）】

- 【P2】「アスベスト鉱山跡地を確認」とあるが、具体的には？

【事務局】

- 年に一度、北海道主体で確認している。道庁・振興局の担当者、市によりアスベスト鉱山の跡地の目視、山部にあるノザワふらの事業所での施設視察、閉山後の体積した蛇紋岩の現状確認を行っている。

【南部委員（事前質問）】

- 【P2】少しの雨でもどの河川も泥水化した流水となるが多くの土壌養分も流出の可能性ありと思うがどうなのか？

【事務局】

- 土壌が流出するという状況はなるべく防がなくてはならないと考えており、農地からの流出であれば、流出しない策を措置するよう指導している。また、山林については、伐採後の枝等が河川に流出しないよう指導している。

【南部委員（事前質問）】

- 【P3】 数字に令和5年末なのに令和4年がないのは？
- 【P3】 アライグマの処分方法はどのようにしているのか？

【事務局】

- 今回配布した環境白書は令和4年度版であり、データはR3年度までとなっている。環境白書は年度ごとに整理しており、すべての統計数値が揃うのが翌年度末ごろと、遅くなるため公表までに間が空いてしまう。
- アライグマの処分方法については、箱わな等で捕獲後に焼却処分となっている。駆除頭数は増加している。

【南部委員】

- 野生動物を保護せず殺処分できるのは獣医師のみの認識だが、市職員が処分できるのか。

【事務局】

- 担当の農林課に確認する。
- （後日確認し）処分を担当する職員については、事前に許可をもらい対応しており、問題ないとのこと。

【南部委員】

- 【P3】 エゾシカ駆除頭数の内訳「肉利用何頭か？駆除証拠部分のみ取り出し山野に置いてきたのは何頭？」か。
- 一番の問題は山野に置いてきたエゾシカは熊やキツネの餌になり、くまの出現や鳥獣被害を大きくしている一つの原因になっているのではないか。

【事務局】

- 肉利用については、「R3／33頭（822kg）」「R4／63頭（1,576kg）」となっている。（別紙【補足】データのとおり。）また、肉利用以外の個体について、多くは山野での埋葬と推測される。
- 鳥獣による農業被害は近年拡大しており、農林課でも重点課題と捉えていると聞いている。対策に関して、現在、関係団体と協議検討しているところと聞いており、いただいた意見は、農林課と共有していく。

【南部委員（事前質問）】

- 【P3】 キタキツネ・カラス・タヌキ等の処分頭数は？
- 【P3】 以前の統計ではタヌキの駆除頭数が全道で突出していたが、今は全く触れていないのは？

【事務局】

- 処分頭数は別紙【補足】データのとおり。

	R3	R4	R5	合計
--	----	----	----	----

タヌキ	31	18	34	83
カラス	62	28	41	131
キツネ	43	34	51	128
計	136	80	126	342

- 現在、野生鳥獣による被害で特に問題に上がっているのが「熊」「鹿」「アライグマ」である。特にアライグマは年々増加しており、被害対策の必要性の声も大きくなっている。
- また、推測になるが、タヌキの処分頭数が以前よりも減少しているのは、アライグマの生息範囲が広がったことで、タヌキが追いやられているのではないかと考えている。

【南部委員（事前質問）】

- 【P4】 1人1日あたりのごみ排出量について、このような推移でR12年に達成できるのか？

【事務局】

- R3年度富良野市の一人一日あたりのごみ排出量は892gとなっている。
- この数値は、全国・全道と比較するため、事業系の排出量も含まれており、純粋に家庭系の排出量でみると、R1は598gに対しR3は617gとなっている。これは、コロナ禍により外出を控えたことによる巣ごもりで大型ごみの排出が増えたものと考えている。
- R12年度目標数値は738gだが、ご指摘のとおり現時点では厳しい数字と考えるが、市民のごみ排出に対する気づきになり、さらにごみ減量に対し環境課としても啓蒙活動を行い、目標達成に向けて取り組みを進めていきたいと考えている。コロナ後から数年程度は状況の推移の注視が必要と考えており、目標は変えずに推進していきたい。

【高橋会長（事前質問）】

- 【P4】 R3の全国や全道の数字はないのか？

【事務局】

- 全国では890g、全道では941gとなっている。

【高橋会長（事前質問）】

- 【P4】 ストックの有効活用とは？
- 【P4】 整備した自主防災組織数5団体は？

【事務局】

- 公共施設やインフラについて、適切な維持管理や防災機能の向上を図りつつ、できるだけ長く使用することをストックの有効活用としている。
- また、市内に自主防災組織が45団体ある。年に一度、宝くじ事業（コミュニティ助成事業）の申請受付があり、手挙げした組織を市でまとめて北海道に申請、採択されれば防災時に必要となる備品を整備している。この整備した団体数が5団体であり、R3年度は新富・西町第3・東山振興会・麻町連合会・麓郷振興会で、発電機や車いす、投光器、スト

ープを導入した。

【南部委員（事前質問）】

- 【P5】不法投棄パトロールとあるが、自分の行動範囲ではコロナ最盛期に比べると悪化しているし、パトロール効果分らないが？

【事務局】

- 5月・10月に重点パトロールを行っている。また、町内会からのごみ相談時等で市内を回る時などは、目についたペットボトル、レジ袋などは都度回収しており、悪質な件、例えばタイヤ・家電などの投棄の際は、警察に連絡して対応している。
- さらに、不法投棄されやすい所には、のぼりや看板の設置を行っているが、のぼりや看板を設置することによって、そこが不法投棄の温床になる場合もあり、対応が難しい部分もあるというのが実状。

【南部委員】

- 堤防を散歩していると狐のふんがとても落ちていて、以前は市役所職員が処分していたが最近は見られない。狐はエキノコックスの関係もあるので、一般の人は触れない。5月10月にパトロールしているならそういったことは把握していないのか。
- また、不法投棄に関しても、実際に摘発された例はあるのか。

【事務局】

- 先ほどお話ししたとおり、パトロール等で目に付いたものは回収するようにしている。また、不法投棄については、警察に通報して捜査してもらっているが、その先が追えないことがほとんどであり、検挙は現状ない。

【南部委員】

- 2～3年ほど前に鹿の問題とも関係するが、30頭ほど不法投棄された件で投棄した人物もわかっていたはずなのに立件されてないで終わっている。もっと厳しい対処が必要なのではないか。
- また、ごみステーションについて、設置場所の家主が変わると、設置を嫌がりステーションがなくなることがある。そうすると、他の既存のステーションに捨てることとなり、その量が増える。こういう状況もあるので、このあたりも含めて、よくパトロールをしてほしい。

【事務局】

- パトロールの在り方、方法に関して検討する。

【高橋会長（事前質問）】

- 【P5】公園遊戯施設更新数とは？

【事務局】

- 前回の環境白書までは公園修繕数（修繕を実施した公園数）を掲載していたが、今回より

公園内の遊戯施設を更新した基数を掲載することに変更した。(公園内に滑り台・ブランコ・ジャングルジムがあり、これを更新した場合は3つとカウント。)

【高橋会長（事前質問）】

- 【P6】水質調査について、調査日の前日・前々日の天候は？

【事務局】

- 別紙【補足】データのとおり。調査日の前日・前々日の天候が調査結果に大きく影響が出てくるということなので、次回からは白書に記載する。
- H30.9.19 実施日：晴れ／18日：晴/雨／17：晴/雨
R1.7.30 実施日：くもり／ 29日：くもり/晴れ / 28日：くもり/晴れ
R2.7.20 実施日：晴れ / 19日：晴/くもり / 18日：晴/くもり
R3.9.7 実施日：晴れ / 6日：晴/くもり / 5日：晴/くもり

【高橋会長（事前質問）】

- 【P7】車に依存しない生活を実践するため、道路改良舗装工事による車道、歩道の整備を実施した9路線は？

【事務局】

- 別紙【補足】データのとおり。
- 道路改良+歩道（所定の深さを掘削して路盤材+舗装など）
①東雲通 ②東9条 ③南2丁目2 ④南3丁目2
簡易舗装（砂利道の舗装など）
⑤たちばな西線 ⑥山部23線 ⑦麓郷南4線 ⑧山部西1号線 ⑨から沢線

【高橋会長（事前質問）】

- 【P9】汚水処理人口普及率とは？

【事務局】

- 市全体の人口のうち、浄化槽を含め下水道等が繋がり処理されている割合を示している。
- R3までは水洗化率を掲載していた。水洗化率は下水管が整備されている地域内での利用率を示したもので、地域で言えば東山が入っておらず、富良野と山部での普及率となっていた。

【高橋会長（事前質問）】

【P10】富良野市のCO2総排出量は「前年度から約3%減少」の前年度とは？

【事務局】

- 本白書公表段階ではR1までの統計しかなく、前年度とはH30を示し、R1がH30と比べて6千トンCO2排出量が減少していることから、率で表すと約3%としている。また、令和3年度の環境白書と各年度の数値が異なっているが、毎年修正等が行われており、それにより数値が変更になっている箇所がある。

- ・4月に正式発表されたロードマップでは目標値を147から121に更新している。

【南部委員（事前質問）】

- ・【P16】環境審議会の開催とあるが、環境白書やロードマップ推進のアリバイ作りに年1回開催しているのではないか。折角委任した委員の声をもっと活用した方が良いと思うが？
- ・【P16】また、環境白書でいつも思うのが、環境課の仕事は各部門の作成した資料を集めるだけではないと思うのだが？

【事務局】

- ・ご意見いただいたとおり、環境基本計画を柱として、基本理念である「市民が健康で文化的な生活を営む上で必要とする良好で快適な環境の確保」と「この環境を将来の世代へ継承する」ことに向け、本審議会では、環境白書等の環境指標を点検しつつ、今後必要となる取り組みや施策についてご意見いただき、新たな施策の検討・取組の見直しをしていきたいと考えているので、委員みなさまからご意見いただきたいと思っている。
- ・環境基本計画の推進については、様々な部署・団体・市民と一緒に取り組みを進める必要がある。市環境課は推進の旗振り役として、市民のみなさんからの声や、国や道の方針等について情報収集し、それを共有させながら、取り組むべき施策等について、自ら実施、あるいは関係部署・団体に促しながら進めていくことが環境課の役割であると考えている。

4. その他

【高橋会長】

- ・皆様のご意見は本当に大切なものになっている。より良いものにするためには、様々な目線でそれぞれの立場でご検討いただき、ご意見を頂戴していきたいと思っている。

【事務局】

- ・提案として、環境審議会の審議をより深いものにするため、例えば、環境課の担当ではない分野について、担当部署の方も来てもらい詳しく話をする機会を設けたり、ゼロカーボンについて他のまちではどんなことをしているのかなど、勉強会のような形で学ぶ機会を設けたいと考えているがどうか。

【南部委員】

- ・今の提案に賛成。今回、特に質問の多い項目に関しては担当課からの直接の補足説明があったほうが良いと思う。

【高橋会長】

- ・勉強会のテーマについて、事務局に一任という形で良いか。⇒異議なし

【事務局】

- ・テーマ案としては、ゼロカーボンや鳥獣被害対策、観光客のごみ問題、このあたりのどれかで調整できればと思っており、後日お知らせする。

5. 閉会